

福岡市



【A. 取り組みの全体像】

1.自治体の概要						
	自治体名		福岡市	担当部局名	福祉局生活福祉部生活支援課	人口 1,612,392（人） <令和2年10月/国勢調査>
	自治体内連携	庁内連携部局（メイン）	福祉局生活福祉部生活支援課	庁内連携部局（メンバー）	福祉局生活福祉部地域福祉課、こども未来局、市民局	
		連携内容	孤独・孤立対策の旗振り役	連携内容	孤独・孤立対策に係る主要な施策の実施	

2.形成をめざす地方版連携PFの姿					
従前の取り組み ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	主に下記のような孤独・孤立対策に関連する事業を実施 （１）生活困窮者支援のPFにおける報告、協議 ・下記連携、協働の取組み実施について適宜報告、協議を実施。 ・インフォーマルな社会資源開発の参考となる支援ニーズ等についての協議や、関係機関の協働促進に向けた取組みの共有を実施 （２）地域講座の実施 ・地域関係者に対し、孤立死の現場やセルフネグレクトについて伝え、見守りを啓発する地域講座を実施 （３）食を通じたつながりづくり ・食を通じた交流について、独居の高齢者や多世代交流等を視野に、社会福祉施設やこども食堂実施団体に呼びかけを実施		実現したい状態 ※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール	□ アンケート調査実施による課題認識及び今後の方針案作成 □ 「福岡市版」お悩みハンドブック活用による情報の一元化
				最終的なゴール	□ 見守り活動の推進、多様な居場所づくり、社会参加促進のための取組み、民生委員活動の支援の充実を図り、孤独・孤立に悩む人に必要な支援が届けられる環境づくりを行う □ 関係部署との連携を進めることで分野横断的な連携促進を図り、孤独・孤立に悩む人が地域などと連携して必要な支援を受けられる環境づくりを行う

3.地方版連携PFの外部連携体制			4.PF連携による価値や工夫_考え方
地方版連携PF 立ち上げ年度 令和5年度	参画メンバー	・ ライフライン関連企業、生活協同組合、社会福祉協議会、NPO法人、孤独・孤立対策関係課 等	□ つながりづくり→関係領域が広範である孤独・孤立について、効果的に啓発していくため、単に問題そのものを取り扱うのではなく、魅力ある「つながりづくりの取組み」と一体的に実施（こども食堂のような食を通じた交流について、独居の高齢者の参加や多世代交流等を視野に、食を通じたつながりづくりを目指す） □ 情報共有→PF関係者の枠組みを超え「孤独・孤立の問題に関すること」の情報共有を行うことで、関係機関の拡充を促し、問題の解決につなげる □ アンケート調査→市内の現状把握のため、全国調査の調査票をベースに、市内でアンケート調査を実施。市独自の設問を追加することで、本市の今後の運営の基礎的情報を確保する
	選出・打診時の工夫	・ 各事業取組みや孤独・孤立対策関係者のネットワークを生かして、関係者、団体を増やしていく	
地域協議会 立ち上げ年度 未	参画メンバー	・ —	
	選出・打診時の工夫	・ —	

【B.連携PFイメージ】

凡例：庁内課室

5. 連携PFのイメージ図



【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

□ 地域の実情を把握した上で孤独・孤立対策の政策立案をするために、市民向けのアンケート調査を実施

事業名称		事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先（予算）
1	実態把握調査	- 福岡市民3,000名を対象として、孤独・孤立に関する実態把握を目的としたアンケート調査を実施する - 福岡市民の人口構造と概ね同じ割合としてランダムに選定した世帯に対して、郵送でアンケートを発出。回答は、紙とQRコードの2つの手法を用意する。 - アンケート設問は、全国調査をベースとしつつ、独自設問を数問追加予定	福岡市民の孤独・孤立に関する実態の把握	✓ 11月-：調査 ✓ 12月-：分析	東京商工リサーチ（290万円）
			成果検証結果 ▶ 孤独・孤立を感じている人の割合：約35％ ▶ 対処すべき個別テーマの特定：20代の孤独・孤立		
2	お悩みハンドブック	- 簡単な質問に答えるだけで悩みの軽減や解決に役立つ情報を簡単に集めることができるウェブサイトとして、「福岡市版 お悩みハンドブック」を作成 「福岡市版 お悩みハンドブック」のアクセス状況を検証し、認知度向上、利用促進に係る検討を行う	- 役立ち情報の集約化 - お悩みハンドブックの認知度向上、利用促進	✓ 10月-：準備 ✓ 2月-：公開	グラフィアー（86万円）
			成果検証結果 ▶ お悩みハンドブックに集約した情報の数：174の庁内支援・制度を集約化 ▶ お悩みハンドブックへのアクセス数：（調整中）		
3	地域食堂向けエプロン製作	地域食堂の運営に使用する普及啓発向けエプロンの製作	食を通じたつながりづくりに関する認知度向上	✓ 2月-：製作	みやざき白衣（13万円）
			成果検証結果 ▶ 製作するエプロンの枚数：44枚		

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- PFにおける連携強化（情報共有）

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

【C.試行的事業一覧】_1.実態把握調査

概要

- 福岡市民に居住する16歳以上の3,000名を対象として、孤独・孤立に関する実態把握を目的としたアンケート調査を実施した
- 対象者は、福岡市の人口構造と同じ性年代で割付をしランダムに選定

工夫点

- 高齢者からの回収を目的に郵送法・無記名方式とWEB回収を併用
- 全国調査と同様の調査設計で全国と福岡市の差異を特定
- 相談したい窓口や気軽に行ける場所等市独自の質問も盛り込んだ

ねらい

- 孤独・孤立に関する調査を実施したことがなかったため、市民向けアンケート調査を実施し、福岡市の課題・実態を把握した上で、孤独・孤立に係る政策設計を行う

結果

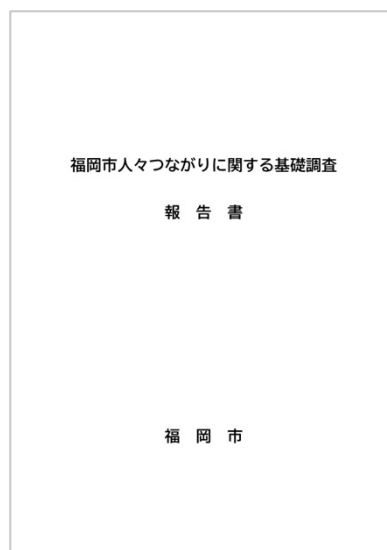
- 1,159票（回収率38.6%）を回収した。結果として、福岡市特有の傾向としては、孤独感を男女・年齢階級別にみると男女とも20歳代が最も高く、次いで男性は50歳代で、女性は16～19歳で高くなっている。

調査手法

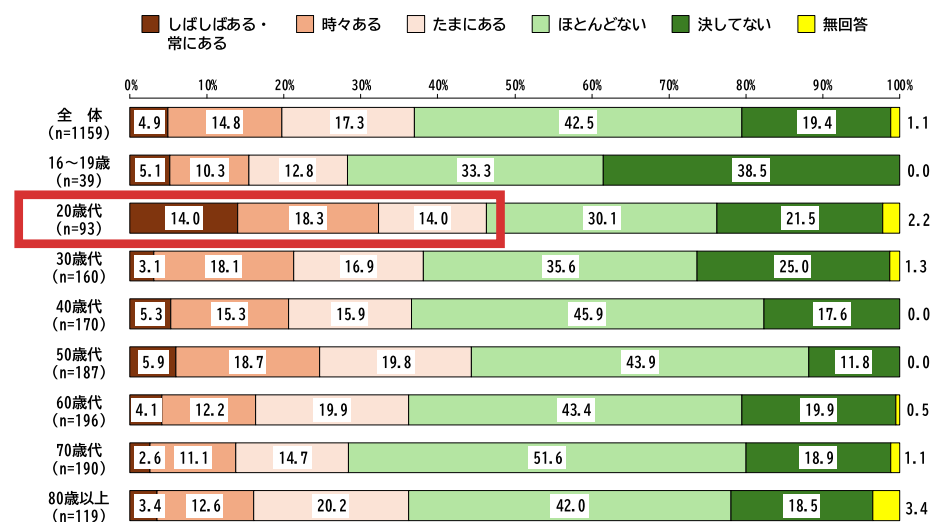
- 調査対象：福岡市内に居住する16歳以上の者を対象とし、住民基本台帳から3,000人を無作為抽出
- 調査方法：郵送法・無記名方式とWEB回収を併用
- 調査結果：令和6年12月9日～令和6年12月20日

福岡市の傾向

- 年齢別にみた孤独感の特徴としては、次のような点がみられた。
 - 男女とも20歳代で、一人暮らしが孤独感に影響を与えた割合が高くなっている。
 - 男性の40歳代から60歳代は、「困った時に頼れる人がいない・不安や悩みの相談相手がいない」割合が高いほど、孤独感が高くなる傾向がみられる。
 - 男女とも70歳代以上で、健康状態が孤独感に影響を与える傾向がある。



目次	
I 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の項目	1
3 調査の方法	1
4 回収状況	1
5 回答者の属性	2
II 調査結果	3
1 孤独の状況	3
2 孤立の状況	36
資料：単純集計結果付き調査票	53



【C.試行的事業一覧】_2.お悩みハンドブック

概要

- 「お悩みハンドブック」とは、市民が「生活の困りごと」などに関する簡単な質問に回答することで、利用できる制度や相談窓口を見つけ出せるウェブサイト。本事業において福岡市版の作成を行う。

工夫点

- 全国共通で掲載している200件以上の支援制度・相談先に加えて、福岡市独自の支援や制度、相談先を追加する。
- 支援・制度の集約化を通じて、庁内関係課の巻き込みを図る。

ねらい

- 福岡市では、多様な支援・制度は用意できているものの、市民目線では複雑化して分かりづらくなっているため、一元管理できる「お悩みハンドブック」を導入することで、その支援・制度の有効活用を目指す

結果

- R7年度以降の公開内容・公開可否について継続的に検討予定

「お悩みハンドブック」とは

- 「お悩みハンドブック」とは、市民が「生活の困りごと」などに関する簡単な質問に回答することで、利用できる制度や相談窓口を見つけ出せるウェブサイト
- 全国共通で掲載している200件以上の支援制度・相談先に加えて、自治体独自の支援や制度、相談先を追加できる自治体版の作成が可能
- 利用者は、悩みに関する質問に答えるだけで、困ったときに役立つ支援・制度が自動的に案内される

「お悩みハンドブック」を起点とした庁内の巻き込み

- 本事業では、福岡市の孤独・孤立に関連する支援・制度を「お悩みハンドブック」へ集約化するため、庁内に対して関連支援・制度の庁内照会を実施
- 最終的に174件の支援・制度を洗い出した
- その中でも特に孤独・孤立の文脈で連携し得る支援・制度やその所管課については、フラグ付けを行い今後の連携先候補として整理した

「お悩みハンドブック」とは

お悩みチェックで役立つ支援がわかるウェブサイトです。
制度の見逃しを防ぎ、相談準備までできるので、困ったときに制度や人を迷わず頼れます。



連携目標	ID	解説記事タイトル	掲載支援（正式名称）	連絡先（窓口名称）	遷移先URL
○	10018	協力も頼める支援機関（お金に困っているとき）	生活困窮者自立相談支援機関	福岡市生活自立支援センター	https://www.city.fukuoka.lg.jp/fukushi/seikatuji/itu/life/seikatsunikomarinokata_2_2.html
○	20003	対象者限定の就労支援プログラム（就職氷河期世代）	不安定就労者再チャレンジ支援事業	福岡市就労相談窓口	https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/keieishien/life/shuurousoudan.html
○	40018	障害福祉サービス	障害福祉サービス	各区福祉・介護保険課健康課	https://www.city.fukuoka.lg.jp/fukushi/shogais/asodan/health/sevice/documents/2021gyousyo.pdf
○	40034	相談窓口（こころの健康）	精神保健福祉センター	福岡市精神保健福祉センター	https://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/seishinhoken/life/seishinhoken-center/kokoro.html
○	40036	相談窓口（発達障害）	発達障害者支援センター	福岡市立発達障がい者支援センター	https://fc-swc.org/yuyui/#?text=%E7%84%A1%E6%96%99%E2%97%8F%E5%88%A9%E7%94%A8%E6%96%B9%E6%B3%95%E9%9B%BB%E8%A9%B1%E3%82%84%E3%81%8A
○	40037	相談窓口（ひきこもり）	ひきこもり地域支援センター	福岡市ひきこもり成年地域支援センター（よかよかルーム）	http://yokayoka-room.net/
○	60004	サポートまとめ（ひとり親）	母子生活支援施設	各区子育て支援課家庭児童相談室	https://www.city.fukuoka.lg.jp/kodomo-mirai/katei/child/boshifushikahufuku.html
○	60015	地域包括支援センター	地域包括支援センター	いきいきセンターふくおか（福岡市地域包括支援センター）	https://www.city.fukuoka.lg.jp/fukushi/chikihoken/health/00/04/4-030101-1-2.html https://www.city.fukuoka.lg.jp/fukushi/chikihoken/health/00/04/4-030101-2.html

【C.試行的事業一覧】_3.地域食堂向けエプロン製作

概要

- 令和5年度より開始した食を通じたつながりづくり、居場所づくりに関する取組について、継続的な認知度普及を目的に昨年度制作した啓発用エプロンの追加製作を行った

工夫点

- 地域食堂において、統一的な広報媒体を作成・提供することにより、一体感ある支援を実施

ねらい

- 食を通じたつながりづくりに関する認知度向上

結果

- 44枚の胸当てエプロンを製作した

経緯

- 令和5年度に内閣官房の孤独・孤立対策官民連携PF推進事業のモデル事業として、日常生活に欠かせず、かつ楽しみや自然な交流が期待できる食を通じたつながりづくりを提供する居場所づくりに取組んだ。
- 今年度においても、引き続き食を通じたつながりづくり、居場所づくりに取り組んでおり、更なる認知度普及に向けて、啓発用エプロンを追加で製作した。

工夫点

- 令和5年度に製作したエプロンを継続的に製作することで、統一的な広報媒体を作成・提供し、一体感ある支援体制を啓発



品 名	数 量	規 格	備 考
胸当てエプロン	44枚	胸あてX型	赤色：22枚 青色：22枚

【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】定量情報の獲得やツール導入がアクションのきっかけに

令和6年4月

令和6年12月～令和7年2月

令和7年3月

取り組み課題

- そもそも福岡市の課題・実態を把握していないために、政策設計ができない
- 庁内部局を巻き込もうにも、必要な説得材料やきっかけがないためにアプローチがしづらい

その後の変化

- 孤独・孤立対策の政策設計の根拠の獲得
- 必要なステークホルダーへの説得材料の獲得
- 庁内における孤独・孤立に関する制度・支援策の網羅的な把握
- お悩みハンドブックを介した関連部局とのタッチポイントの獲得

アクション／ブレイクスルー要因

- 試行的事業で実施した市民向けアンケート調査の結果から、定量的に福岡市の傾向・課題を特定
- お悩みハンドブックを導入するプロセスの中で庁内全体に対して、孤独・孤立に関する制度・支援策の照会を実施